

ドイツの学生と共に学ぶ医学

科目責任者：増 田 道 明（日独連携推進室）

I. 前 文

獨協医科大学は昭和48(1973)年に開学しましたが、そのルーツは今から140年以上前、明治14(1881)年に設立された「獨逸學協會」にあり、ドイツとの学術交流を積極的に進めています。ミュンスター大学やレーゲンスブルク大学とは学術交流協定を結び、交換留学などを行っています。昨年度も2名の6年生と、8名の5年生がドイツの協定校で臨床実習や学会発表などを行いました。

この科目は、ドイツの医学教育や医療に関心のある人を対象として、ドイツ人の医学生と直接コミュニケーションしながら知識を深める機会を設けることを目的としています。また、日本の医学教育や医療、文化に興味を持っているドイツ人医学生もいますので、情報を提供してあげてください。使用言語は英語ですが、お互いに母国語ではないので、臆する必要はありません。専門的な医学知識は不要ですので、1年生でも参加可能です。将来のドイツ留学を視野に入れている人は是非参加してください。

II. 受入可能人数

5～10名を想定していますが、特に人数は制限しません。

III. 担当教員

増 田 道 明	（国際協力・支援センター 日独連携推進室・特任教授）
ヴォルフガング・アーデ	（国際協力・支援センター 日独連携推進室・特任教授）
ベルンハルト・マーシャル	（ミュンスター大学・教授）

IV. 学習内容

月に1回程度、Zoomなどを用いてドイツの医学生とオンラインで交流する機会（自宅などからも参加可能）を設け、医学教育や医療に関するテーマについて、日本とドイツそれぞれの視点からディスカッションを行います。使用言語は英語です。各回のテーマは事前に決め、その回の発表者も決めておきます。発表者はオンライン交流会までに日本の状況について下調べをして、英語で説明できるように準備します。発表者以外も、ディスカッションに参加できるよう、下調べをしておくことが求められます。各回の終了後、印象深かった内容について「今回のポイント3項目」を100字（日本語）または100 words（英語）程度でまとめて、メールにて提出してもらいます。

V. 学修の到達目標

本学医学部のディプロマ・ポリシーの一つである「医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる」というのが大きな目標です。そのための下位項目として以下のものが挙げられます。

- ・英語コミュニケーションを、苦手意識を克服しつつ行うことができる。
- ・日本の医学教育や医療について、英語で説明できる。
- ・ドイツの医学教育や医療について、英語での説明を理解できる。
- ・ドイツ人医学生の英語でのディスカッションに積極的に参加することができる。
- ・ドイツ人医学生との交流を通じて、共に学ぶ者としての良好な人間関係を形成することができる。

VI. 成績評価の方法・基準

オンライン交流会への出席状況（20%）、発表準備状況（20%）、発表の様子（20%）、ディスカッションへの参加状況（20%）、「今回のポイント3項目」の提出状況とその内容（20%）などを総合的に評価します。出席回数が全体の2/3に満たない場合は、成績評価の対象としません。

VII. 教科書・参考図書・A V 資料

- ・ Zoom 接続が可能なパソコン，タブレット，スマホのいずれかを各自用意してください。画面が大きい方が見やすい場合もあります。
- ・ 各回のテーマについて調べる際の資料については，その都度一緒に相談しながら決めていきます。

VIII. 質問への対応方法

質問は，科目責任者へのメール（m-masuda@dokkyomed.ac.jp）にて随時受け付けます。アーデ先生やマーシャル先生への質問は日本語だけでなく，英訳またはドイツ語訳を添えることが推奨されます（AI 翻訳などの使用可）。

IX. 求められる事前学習，事後学習及びそれに必要な時間

各回のテーマについて，発表者は 2 時間程度以上の情報収集が求められます。収集した情報を英語で説明するための準備はそれぞれの皆さんの英語力によっても異なりますが，1 ～ 2 時間程度かと思います。発表者以外もテーマに関する情報収集やディスカッション用の英文作成に 1 時間程度はかかると思います。

X. コアカリ記号・番号

（授業をととして該当する医学教育モデル・コア・カリキュラム （令和 4 年度改訂版） の記号・番号をまとめて明記して下さい。）

LL-01-01, RE-01-01, (RE-02-02) , IT-02-01, (IT-03-01) , IT-03-02, SO-05-02,

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

提出された「今回のポイント 3 項目」については，科目責任者または他の担当教員からメールでコメントを送ります。

Ⅻ. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料、情報通信技術〈ICT〉などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	○
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	◎
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	○